

「若手研究者を中心とした昼食懇談会」報告

記念センター 豊田 信 介

東亜同文書院大学記念センターでは、昨年度から月1回のペースで「若手研究者育成会」を行ってきたが、それらの活動を総括する「昼食懇談会」が、去る7月28日（火）に大学記念館1階のガーデンサロンにて催された。参加者は通常のオープン・リサーチ・センターのメンバー（今回は12名）に、(株)エー・ユー・エス代表取締役（前愛大事務局長）の山本明氏、短期大学部事務課長（前豊橋研究事務課長）の古河邦夫氏の2氏を加えた計14名であった。

会の冒頭には、山本明氏と藤田佳久センター長から、それぞれご挨拶を頂いた。山本氏は本会の主催者である越知専研究員との交流歴について語られ、一方、藤田センター長はO.R.C.における越知研究員の取り組みについて、「まるで本間先生が乗り移っているかのごとく」という表現を用い、愛知大学に対して多大な愛情を注ぎ続ける越知研究員に感謝の意を示された。

続いて越知研究員から、昨年度から現在に至る「若手研究者育成会」の活動記録についての報告が行われた。O.R.C.に所属する若手研究者の関わった学内外の活動が、それらをまとめたファイルを用いながら解説され、若手の育成に対する越知研究員の熱意が一同に伝えられた。越知研究員は報告の中で、3年前のO.R.C.発足当時から既に

このような若手育成の構想を持っていたこと、また若手に対しては「幅広い視点で今後の活動に取り組んでほしい」といった要望を述べられた。

その後、話題は7月25日（土）に記念センターへ来館された本間喜一名誉学長のご親戚一同の話となり、大学史事務室の小林氏から、その際に寄贈された貴重な資料についての解説がなされた。

（追記）

当初の予定では、会の終わりに若手研究者から一言ずつコメントをもらう予定でしたが、時間の都合（と司会者の不手際）により割愛となってしまいました。以下に豊田個人のコメントを述べておきます。

私はずっと個室にこもって作業をしているため、他の若手研究者のお話を聞く機会があまりなく、月1回のあのような場は非常に貴重な機会でした。皆さんの活動報告は自分にとって良い刺激となり、日々の作業を進める上で大きな励みとなりました。「若手研究者育成会」には感謝しています。

以上